

木曾について思ったり、感じていることを語り合った

～4月1日、春のミーティング in 木曾町～

4月1日（土）午後6時半から御料館（旧林野局木曾支局庁舎）で「木曾川上下流交流春のミーティング」と銘打った集まりを企画しました。今回開催の趣旨は「2017年度の取り組みにあたり、長野県木曾6町村の現在の課題と魅力、都市部・下流域の課題や問題などを整理し、木曾川上下流交流・連携の次なるステップに進んでいくため、自由活発な話し合いの場」（ミーティング呼びかけ文より抜粋）として考えました。「水源の里を守ろう 木曾川流域みんなの会」事務局の近藤、鈴木と小池糶店の唐沢さんの3人が呼びかけ人となり、上流域の方々へ参加を呼びかけました。

呼びかけ文の郵送とは別に、唐沢さんが直接声をかけるなどの尽力があり、木曾町から15人前後の参加をいただき、総勢20名ほどの会合となりました。これまで行政の方々との接点を持つ機会は何度かありましたが、今回は木曾町中心に民間分野で活躍されている方が多く、上流域の魅力と課題について、これまでとはまた違う雰囲気の意見交換会になりました。全く初めての取り組みの上、上流域の方々同士も初対面の方が多く、お互いの簡単な自己紹介から始めました。はじめに、木曾で暮らしたり働いておられる地域の魅力を語って下さいとお願いしました。

「昔は水泳もした木曾川。今はラフティングで楽しめる。ず～っと自然と仲良く暮らしてきた」

「木曾川の水はおいしい。水の恩恵を農業や食品業界などでは、今も受けている」「間伐が手遅れの山があちこちにみられる。森がしっかりしている山は川も安定していた」「人口減少と高齢化による地元経済の衰退を身に染みて感じている」など魅

力や課題について様々な意見が出されました。

木曾には宝物がたくさんあります。もっと発信力を高めて下流域の人びとに伝えていくやり方が必要と参加の皆さんも感じてみえるようでした。上下流交流のキーワードである「木曾川」、その水、



『Kisojin』(2017 VOL.7) から引用しました(感謝!)

和食の世界遺産登録後、ますます注目されている発酵食品など、発信の仕方次第でもっと広がっていくのではないかと改めて感じました。ふるさと自慢を皆さんに聴いていく中で話しやすい雰囲気が出来上がってきたせいか、参加者同士が議論をするような形に発展し、自然と現在の問題点・課題へとテーマが移り変わっていきました。例えば、森林資源が手入れの不十分さと販売不振から荒廃が進んでいることには、多くの方が危機感を感じていました。

水・森林をはじめとする自然資源、酒・味噌・漬物などの食文化、祭りや建築物などの有形・無形の文化資源、そこに住む人のあたたかさを話さ

れる方もみえました。

後半はかなり砕けた雰囲気でしたので、まずは成功だと思いました。次回は7月頃に、下流域からみた木曾の魅力を中心にしながら、

上流と下流の“経済”の仕組みなどについても話し合いたいと思います。

よろしくお願いします。

(呼びかけ人：近藤・鈴木・唐沢)

▽今回参加した2人から下記の文書を寄稿していただきました。ありがとうございます▽

出来ることは何か、テーマを絞って続けましょう

すぐに、鶴の一声で何でも出来るわけではありませんが、下流域の人達が考えている事や、木曾の住民が思っていること等を聞くととても良い機会です。4月1日は、初めてだったのでテーマを決めずにやったのは、様々な人が、自分の角度から意見を言ってもらえて良かったと思います。

次回からは具体的に、何について出来る事は何か等、テーマを絞ってやっていったらどうでしょうか。木曾の文化に触れたりするのも良いと思います。昨年もお知らせはしましたが、黒川地区の奉納花火大会なども面白い催しです。昔からこの地区では神社に花火を奉納する文化があり、神主も地元、花火師も地元の人らしい。自分達で花火を作り、自分達で打ち上げるのです。毎年10月の中頃だった気がします。みんなの会で寄付を出したり、花火代を出して上げてもらうのも良いのではないのでしょうか。ちなみに黒川は「水源水」の工場がある場所です。昼間は「ふるさと体験館きそふくしま」でそば打ち体験をして、「水源水」工場を見学。神社の祭りを見て、夜は花火見学。その中から交流が生まれたりして来る気がします。

あまり大きな事や難しい事を言っても結局出来ないことが多い気がします。

余談ですが、最近東京で発酵をテーマにした店がオープンしました。小池糰店の味噌も置くことになりました。先日、あいさつもあり、東京の店に行ってきました。そこで面白い物を見つけました。木琴です。木琴にはさくら、ひのき等の名前が入っています。目で見て、手で触って、音も出ます。「木曾五木で作ったら」何て思いました。ちなみに高山で作っているらしいです。

(小池糰店 唐沢尚之)

地道にコツコツと上下流の交流を

新年度がスタートした4月1日、木曾町福島にて木曾川上流域の木曾町の方々とミーティングが行われました。みんなの会も9年目に入り、新たな取り組みが必要に思いました。過疎化の進む人口の少ない上流域は、もはや大都市部の方々の力添えが、なければやっていけなくなる現状…。人口の多い都市部と上流域に住む方々との人的交流をどんどん増やして行かなければと思いました。

例えば、田舎の子どもたちと大都市「名古屋」部の子どもたちとの交流、畑のオーナー制とか、プチ田舎暮らしホームステイとか、川沿いで「男女お見合いキャンプ」とか、上下流つり大会とか、小池糰店のおいしい味噌を使ったお料理上下流レシピとか…。

みんなの会の原点でもあり、新しい民と民、人と人との心の交流…。地道にコツコツとコツコツと拡大出来ればいいなあ、切に思いました。(木曾町 本島)

薫風の五月！ 大豆作り・味噌造りの始まり

5月、今年も大豆作りの季節。

畑のある所は木曾川最上流の長野県木祖村で、広さは約180坪ほどです。遠くに木曾駒ヶ岳を望み、周りには白菜作りの畑が広がり、白樺も立ち並ぶ林の隣のところです。恵まれた自然環境のなか、木祖村の笹川さんにお世話になりながら6年間続けてきています。

昨年は大豆の苗づくりがうまくいかず、トウモロコシが鳥害により全滅してしまいましたが天候にも恵まれ大豆と黒豆の全体の収量が100kgを超えて過去最高になりました。

私たちの大豆作り・味噌造りは木曾川上下流交流・連携の活動の一環として、私たちの上流への行きつけの場所をつくり、上流域の人々との顔の見える繋がりを作りだしていくことです。また、出来上がった味噌「みなもと」を下流域

で販売し水源の里基金に積み立てています。

大豆は煮豆、きな粉として食べるだけでなく味噌、醤油、豆腐、納豆などの主原料でもあります。まさに私たちの食文化の基盤を作るものです。しかしながら国産大豆の自給率はここ数年では7%で、加工用に限っても約4分の3を輸入に頼っており、遺伝子組み換え大豆の混入や収穫後の農薬、殺虫剤など多くの問題を抱えています。

大豆作り・味噌造りの中から今の私たちの食のあり方や、流通、日本の農業の姿が見えてきます。

上流域で丹精込めて作りだされた生産者の顔が見える商品を下流域で販売して、上流に還元する“小さな経済”の循環を少しずつ広げていくきっかけになると思っています。

<大豆の苗床づくり…5月20、21日、一緒にいきませんか>

来る5月20~21日には今年の大豆作りのはじめとして、苗床を作り大豆を蒔いて保温のトンネルマルチで養生する作業を行います。今年は雪がかなり多く、4月末でも日陰には雪がいたるところに残っているそうです。桜の見ごろもまだこれからとのこと。朝夕は肌寒いですが着実に春を迎えつつあるようです。皆さんの参加お待ちしております。

☆2017年 みんな・みんな楽作隊活動日程☆



- 5月20(土)~21日(日) 大豆種まき (=写真は昨年5月の様子)
- 6月17(土)~18日(日) 大豆の苗の定植
- 7月8(土)~9日(日) 草取り
- 7月29(土)~30日(日) 味噌の天地返し&草取り
- 8月26日(土) 草取り (日帰り)
- 9月23(土)~24日(日) 稲刈り体験
- 10月21(土)~22日(日) 大豆収穫
- 11月18(土)~19日(日) 殻たたき

この作業の全部の日程に参加できなくても構いません。参加してみたい作業で都合の付く日に、1日でも参加できますので、連絡ください。楽作隊の年会費は5千円です。また、車で乗り合わせて参加する場合の交通費は無料です。詳しくは事務局までご相談してください。

問い合わせ みんな・みんな楽作隊 担当 近藤 090-4150-6156

名古屋市科学館へ木曽青峰高校生が木製玩具贈呈

2017年3月10日午前11時から名古屋市科学館2階のウッディプレイランドで、長野県木曽青峰



自分たちで作ったおもちゃの遊び方を説明する高校生

高校インテリア科6人の女子高校生が制作した2つの木製玩具「ころころおもちゃ」「木製わなげ」の贈呈式が行われました。額長館長から感謝状が高校生に渡され、名古屋圏が歴史的に木曽材によって発展してきた、今若い人による地元材のおもちゃが作られていることに感慨深い、とのお礼の言葉が述べられました。続いて、木曽広域連合地域振興課の大島さんから上流と下流の交流の架け橋を担ってきている成果の一つとして、この取り組みがあります、と述べられました。みんな・みんな

の会の河崎からは、木曽川水源の里基金の経緯や木曽青峰高校との出会いや、今回が4回目の贈呈で高校生が制作した「木のおもちゃ」の作品は、20近くになっているなどを報告しました。

その後、制作にあたって苦労したことを高校生から語ってもらい、最後に担当の早川先生から、生徒たちの制作時での柔らかな感性に驚いたなどの話がありました。

2017年度も木曽五木を活用した木製玩具を依頼しています。インテリア科の新3年生が、どのような作品を作っていくのか、大いに楽しみです。夏休み前に、科学館学芸員の方と一緒に高校へ出かけて交流しながら話し合っていきます。8月には、子どもたちや親子がおもちゃで楽しんでいるか、科学館の現場を見学してもらう予定です。

“木曽の高校生が、木製の作品を作る”一素晴らしい作品たちにもっともっと光をあてたい、木曽の人たちや木曽を訪れる人たち、下流域の人たちなど、多くの人びとに高校生の輝きを伝えたい。高校生の作品が、常設に展示してある場所を木曽町駅付近に創り出していく話し合いを重ねています。

今年度も木曽川流域水源の里基金へのご協力ご支援をよろしくお願ひします。(かわさき)

<みんな・みんなの会からのお知らせ>

☆6月4日(日)なごや水フェスタに参加します。名古屋市千種区の鍋屋上野浄水場で午前10時から午後3時まで開催。会場へは、地下鉄砂田橋下車、南へ徒歩4分。お出かけを!

☆☆☆第7期木曽川流域

水源の里基金へ募金の

ご協力をお願いします☆☆☆

<郵便振込口座>

口座番号; 00810-1-158556

加入者名; みんなの会

(水源の里基金と記してください)

水源の里を守ろう

木曽川流域みんなの会

☆共同代表☆

河崎典夫、伊澤眞一(名古屋生活クラブ)

☆顧問: 斎藤まこと(名古屋市議)

山根みちよ(日進市議)

☆連絡先☆ 〒464-0075

名古屋市千種区内山3-7-11 斎藤事務所気付

TEL 052(745)1001 FAX 052(741)2588

HP: <http://www.kisogawaminin1.net/>

e-mail: suigennosato@gmail.com